

グローバル教育に関する学術文献情報

古川 雅文

(兵庫教育大学)

本研究は、グローバル教育に関する学術文献情報量の変化を、世界規模に関してはERIC、わが国に関してはEDMARS (教育研究文献情報データベース) を利用して検討したものである。その結果、グローバル教育に関する学術文献情報が、1980年代後半から急激に増加していることが明らかになった。また、グローバル教育に深く関連すると思われる研究領域である、国際理解教育、環境教育、情報教育については、それぞれ特徴的な年次推移の形態を示すものの、いずれも1980年代後半からやはり増加している。この傾向は、現代の地球社会全体の傾向を反映したものと考えることができる。ただし、わが国においては、グローバル教育に関する学術文献情報量は多くなかった。

キーワード：グローバル教育、文献情報量、書誌学的研究、ERIC、EDMARS

古川 雅文：兵庫教育大学・学校教育研究センター・助教授，〒673-14 兵庫県加東郡社町山国2007-109,
E-mail: kogawa@ceser.hyogo-u.ac.jp

Changing of the Amount of Academic Information about Global Education

Masafumi Kogawa

(Hyogo University of Teacher Education)

The purpose of this study was to examine the changeing amount of available academic bibliographic information on global education by using databases; ERIC and EDMARS. The results revealed that (1) the amount of academic bibliographic information on global education increased suddenly during the latter half of 1980s. As for the related fields, such as international understanding education, environmental education, and information technology and education, the amount of academic bibliographic information also increased suddenly during the latter half of 1980s. This may reflect the worldwide tendency of contemporary society; globalization, environmental crisis, and information society. On the other hand, the amounts of academic bibliographic information on global education and related fields were rather small in Japan during 1985 - 1995.

Key Words: global education, amount of academic information, bibliographic research, ERIC,
EDMARS

Masafumi Kogawa is an Associate Professor of Center for School Education Research at Hyogo University of Teacher Education, 2007-109 Yamakuni, Yashiro, Kato-gun, Hyogo 673-14 Japan. E-mail: kogawa@ceser.hyogo-u.ac.jp

教育に関する研究領域を扱う研究や教育実践については、さまざまな形態の情報が生み出される。それらは、論文や報告書などの文献として、新聞や雑誌などでの記事として、テレビやビデオなどでの映像として、ラジオやオーディオ・テープなどの音声として、また、教材やパンフレットの形といった、さまざまな形態の媒介（メディア）によってわれわれにもたらされる。また、最近では、インターネットに代表されるコンピュータ・ネットワークによっても膨大な情報を得ることができる。

こうした、さまざまな情報の中で、グローバル教育に関する、より実践に近い部分の情報で、かつ、インターネット上でアクセスできるわが国のホームページに関する情報については、長瀬（1998）で詳しく紹介されている。そこで、本論文は、グローバル教育に関する研究情報のうち、学術文献情報について検討する。研究活動の中で生産される情報を学術情報と称するが、そのなかで、研究報告書や研究論文などの文献の形態をとるものを大谷（1980）にしたがって、学術文献情報と呼ぶこととする。

このような学術文献情報の検索や文献調査に関しては、学術文献情報に関するデータベースを利用することが最も効果的であるといつてよかろう。教育関係でよく利用されるものとしては、ERIC (Educational Resources Information Center) のデータベースが最もよく知られている。また、わが国においても、近年、EDMARS (教育研究文献情報データベース) が岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発センターで構築され、インターネット経由での利用が可能となった。²⁾

本研究の目的は、学術文献情報データベースを用いて、グローバル教育に関する文献の発表数の推移を調べることである。これにより、グローバル教育研究の隆盛、衰退の様子をみる事ができる。また、グローバル教育研究を進めるための基礎的情報を押さえ、今後の研究推進の指針を得るための一助となすことが可能であろう。

調査方法

調査対象 文献の量的推移の検討には、ERICのデータベース（1966年～1997年12月）を利用した。これは、兵庫教育大学・附属図書館に備えられたCD-ROM版であり、学内LANを経由して利用した。また、わが国における学術文献情報の情報源として、岐阜大学において構築された教育研究文献情報（EDMARS）をインターネットを介して利用した。

検索方法 ERICにおいては、Global-Education, Global-Studies を検索語とし、全文検索を用いて、年次別に検索した。したがって、タイトル、索引語、要約など、どこかに検索語と一致するものを含む文献を該当

の文献として抽出した。

また、グローバル教育に関連の深い研究領域である、国際理解教育、環境教育、情報教育に関する文献を検索するための検索語として、International-Education, Environmental-Education, Information-Technology & Education, およびInformation-Seeking & Educationをも用いた。

さらに、収録されている論文数が年次ごとに異なるので、単純に発表された文献数では比較が困難であると考え、各年次の全体の収録文献数も検索により調べた。

EDMARS (教育研究文献情報データベース) においては、これに含まれるデータベースのうち、グローバル教育に関連が深いと考えられる、教育工学関係文献データベース、教育学関係文献データベース、心理学関係文献データベース、教科教育関係文献データベース（社会科）の4つのデータベースを利用した。（ただし、心理学関係文献データベースにおいては、1件も発見できなかった。）

検索語としては、「グローバル」および「Global」を用い、これらのうち、どちらかが、論文表題または索引語として含まれるものを検索した。

結果および考察

(1) Global Education関係の文献情報量

図1は、ERICに収録されたglobal education関係の文献数の年次別推移を表したものである。これをみると、1970年代はほとんど皆無であり、1980年代に入って年に数編ずつが発表されるようになったことがわかる。その後、1980年代の終わりから急上昇を続け、1995年にピークを迎えているように見受けられる。しかし、1996年及び1997年の減少に関しては、実はこのデータの見かけ上の変化である。それは、ERICに収録された全文数に対するglobal education関係の論文数の割合を示した図2を見れば明瞭である。1996年、および1997年の文献に関しては、このデータベース作成時点では未収録のものが多数あると推測され、そのため、絶対数では減少したように見えるのであろう。図2に示されているように、収録文献数との割合では、1996年以降も、論文の増加傾向が続いていることが読みとれる。

また、図1には、global studies に関係した論文の発表年次推移も示した。これを見ると、global educationと同様、1980年代より発表されるようになる。そして、この当時は、global education関係の論文数とglobal studiesの論文数にほとんど差はみられない。しかし、global studiesは、1988年をピークとして、その後は、減少し、1990年代にはほとんどみられなくなる。global studiesという語がglobal educationにその地位を追わ

れ、消滅していった様子が表れている。

次に、図3は、わが国におけるグローバル教育関係文献数について、10年間（1985年～1995年）の推移を示したものである。この図から、まず言えることは、わが国におけるグローバル教育関係の論文はごく少ないということである。もっとも、このデータベースの中に収録されていない論文や、内容的にはグローバル教育に含まれ

るものでも、ここで使用した「グローバル（またはGlobal）」という検索語ではヒットしなかったものもあることは考えられる。ただ、ERICに収録されていた論文数に比べて、非常に少ないことは確かであり、わが国におけるグローバル教育研究が、まだまだ盛んとは言えない状態であることを示している。

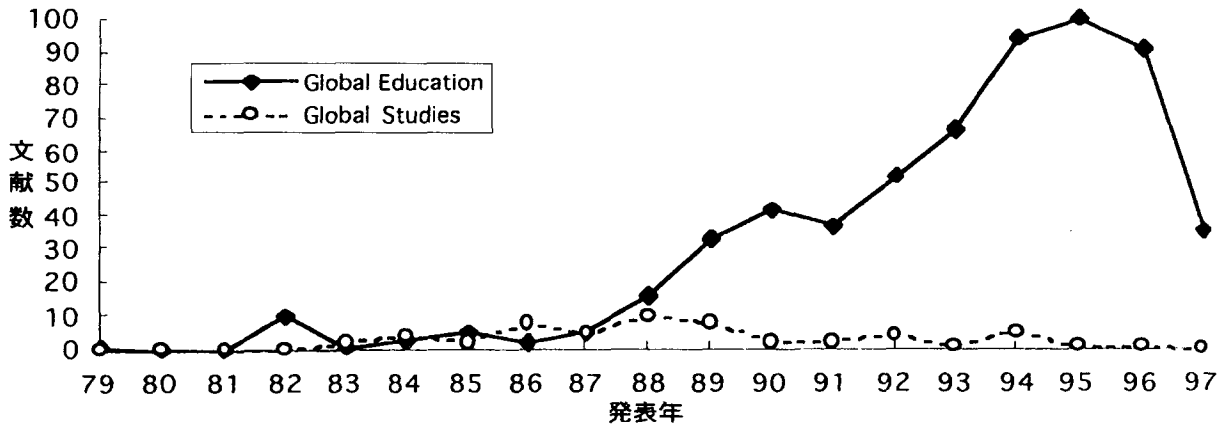


図1 ERICに収録されたGlobal education関係の文献数の年次別推移

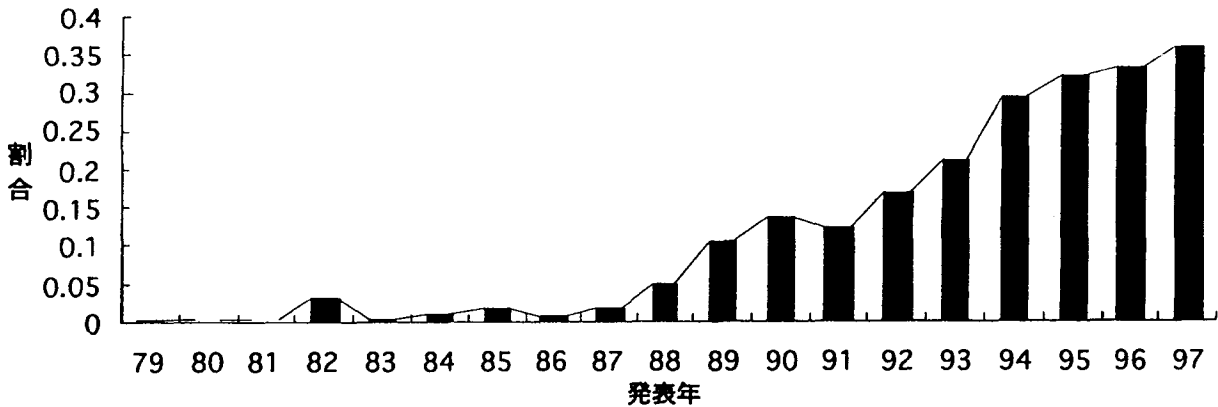


図2 ERICに収録されたGlobal education関係文献の割合の年次別推移

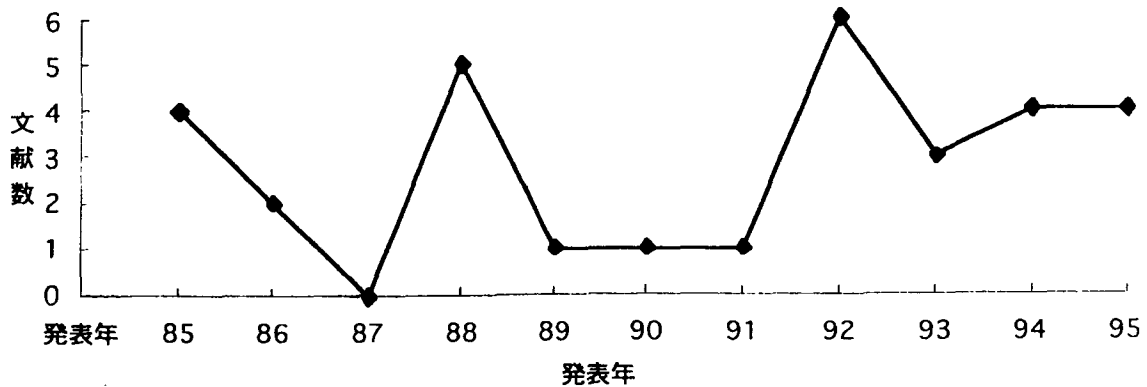


図3 EDMARS（教育研究文献情報データベース）に収録されたグローバル教育関係文献数の年次別推移

ともあれ、この図からいえることは1985年、1988年、1992年において多比較的数の論文が発表されているように見える。そして、1992年以降は、コンスタントに3~4論文が発表されており、1992年以降、グローバル教育への関心がそれまでより高まったことを示唆しているように思われる。

EDMARSには1996年以降のデータが収録されておらず、最近の動向がうかがえないのは残念である。

(2) International Education関係の文献情報量

図4は、international education関係の論文数の推移をERICに収録された総論文数の割合で示したものである。これをみると、1960年代後半から、1970年代の前半にかけてinternational education関係の論文が多く発表されていたことが分かる。(残念ながら、それ以前の信頼できるデータはERICになかった。)その後、1970年代後半から1980年代前半にかけては、international education関係の論文の発表は低調である。しかし、1980年代後半から、少し増加し、1990年から1992年にかけて、小さなピークを形作り、最近、再び増加の傾向にあるように見える。このような1980年代以降の増加傾向は、global education関係の文献発表割合の増加傾向と時期的にほぼ重なっている。ただし、global education関係文献の方は、急激に単調増加している。

これらのことから、1980年代後半から、通信や経済、交通等の発達に伴って、世界のグローバル化が進展し、それに伴って、international educationやglobal educationの研究が盛んになったように考えられるであろう。ただし、international educationは、古くから使われてきた言葉であるのに対して、新時代の状況を表す言葉であるglobalの方が多く使われ、概念的にも国際(理解)教育から、さらに広い概念であるグローバル教育へと移行していったのではないかと考えられる。

図4には、international education関係論文の中で、global educationという語も同時に使用している論文についての割合も示した。これをみると、両方の語に関係した論文はさほど多くないことがわかる。グローバル教育が盛んになってくる1980年代の終わりから両方の語に関連した文献が見え始める。その後、1995年頃までは少ないけれども一定量を保っているが、1997年にかけては、また少なくなっている。これらのことから、それぞれの語は、ある程度は異なったものと認識されて使用されていると推測される。

(3) Environmental Education関係の文献情報量

environmental education関係の論文数(総論文数に対する割合)の年次推移を図5に示した。一見して分かるように、論文量の変化は2つの山を形成している。一つのピークは1970年代初頭から中葉にかけてで、その後、若干減少し、1990年代に入って再び上昇に転じ、1994年に第2のピークを迎えている。これらは、環境問題が大きく取り上げられた時期であろうと思われるが、残念ながら、現時点では十分な資料的裏付けを持たないので、結論めいたことは述べ得ない。今後、検討を要することである。

また、図5には、environmental educationとともに、globalという語、およびglobal education(あるいはglobal studies)という語とも関係している論文数の割合をも示した。これをみると、global educationが盛んになり始めた1980年代からglobalとの重なりが始まり、その後、増加傾向にあるようにみられる。環境問題も、グローバルな視点が必要な時代となったためであろう。ただし、1997年には減少しており、これは原因不明で、気がかりな結果である。データベースの最終年であり収録論文の偏りがあるのかもしれないが、正確な理由は分からない。

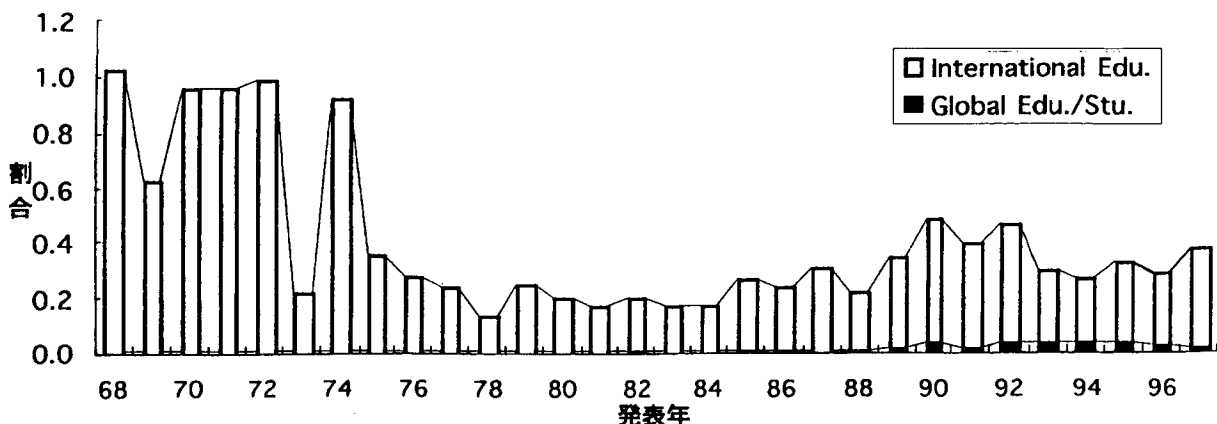


図4 ERICに収録されたInternational education関係文献の割合の年次別推移

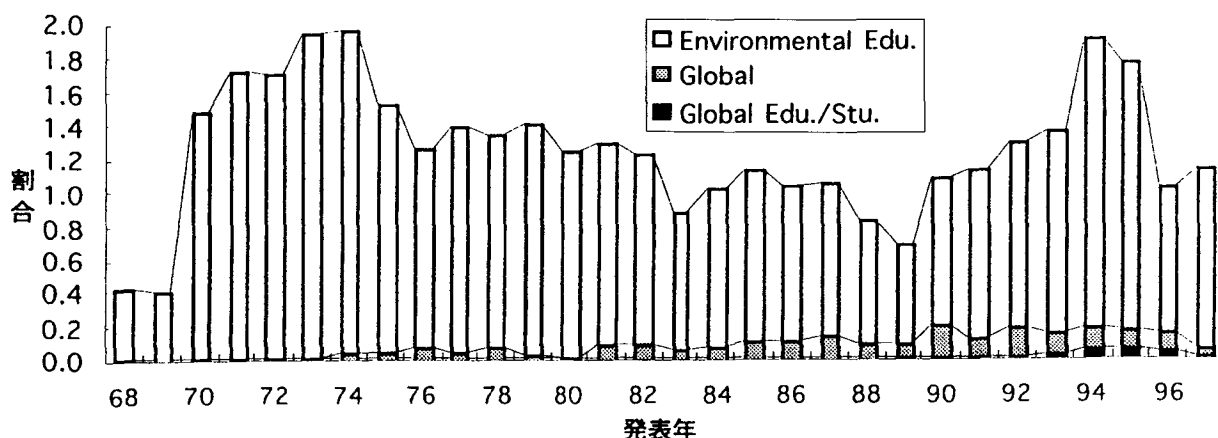


図5 ERICに収録されたEnvironmental education関係文献の割合の年次別推移

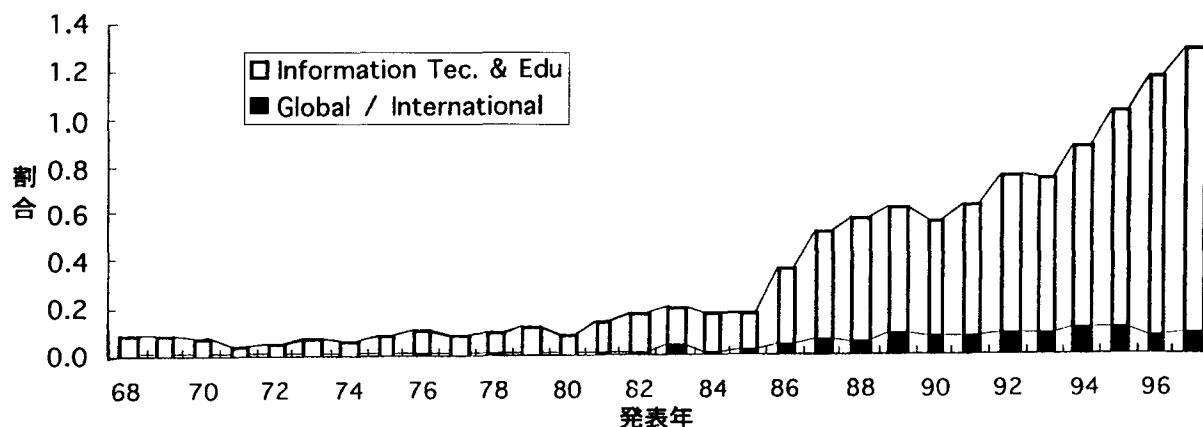


図6 ERICに収録されたInformation TechnologyおよびEducationの両方に関する文献の割合の年次別推移

(4) Information Technology教育関係の文献情報量

情報教育に関する発表論文数を検討するため、information technologyおよびeducationの両方の語を含む文献を検索した。図6は、その結果を示したものである。この図から、1980年代後半より、教育関係の文献の中で、情報に関する文献が急増していることが示されている。この変化は、前に示したglobal education関係の論文数の割合の年次変化と非常によく似ている。このことから、情報社会の到来と、世界のグローバル化がほとんど同時に進行し、それらへの教育の対応がここ10年の間に急激に進展したことを物語っている。また、もう少し踏み込んで考えると、コンピュータと通信の技術革新によってもたらされた情報社会への移行が、今日の世界のグローバル化を引き起こしたということの一つの証拠とも考えられる。

結 論

以上のビブリオグラフィックな調査により、グローバル教育に関する学術文献情報が、1980年代後半から急激に増加していることが明らかになった。このことから、グローバル教育に関する研究がこの頃より盛んになり、現在もこの傾向はおそらく続いているであろうことが示唆された。ただし、わが国においては、さほどたくさんのグローバル教育に関する学術文献情報が発表されているとはいえない状態である。世界の研究に追いつく努力が今しばらく必要ではなからうか。

また、グローバル教育に深く関連すると思われる研究領域である、国際理解教育、環境教育、情報教育に関する学術文献情報量については、それぞれ特徴的な年次推移の形態を示すものの、いずれも1980年代後半からやは

り増加している。この傾向は、現代の地球社会全体の傾向を反映したものと考えることができる。

注

- 1) 本論文は、平成8-9年度文部省科学研究費補助金による研究「グローバル教育の授業実践に関する国際比較研究」(研究代表者: 片山忠次, 研究課題番号: 08045005)の研究成果報告書に掲載した論文に若干手を加えたものである。
- 2) EDMARS教育研究文献情報データベースは、教育研究での利用を目的として、岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センターが構築を進めてきたEDMARS-GIFUの文献情報の一部を試験的に提供しているものである。インターネット上のURLは、

<http://www.crdc.gifu-u.ac.jp/edmars/index.html>

サービス中のデータベースは以下のものである

1. 教育工学関係文献データベース
学会誌・大学紀要を中心に、最近10年のものが収録されている。収録件数は約9,100件。
2. 教育学関係文献データベース
教育, 高等教育, 特殊教育関係のものが収録されている。収録件数は約6,100件。
3. 心理学関係文献データベース

学会誌を中心に、最近10年のもの(1985-1994)が収録されている。収録件数は約3,500件。

4. 教科教育関係文献データベース (国語)
学会誌を中心に収録されている。収録件数は約4,800件。
5. 教科教育関係文献データベース (社会科)
学会誌を中心に収録されている。収録件数は約4,200件。
6. 教科教育関係文献データベース (算数・数学)
学会誌を中心に収録されている。収録件数は約2,500件。
7. 教科教育関係文献データベース (体育・保健体育)
学会誌を中心に1985年以降の文献約4,900件が収録されている。
8. 教科教育関係文献データベース (英語)
学会誌を中心に収録されている。収録件数は約1,600件。

引用文献

- 長瀬久明 (1998) グローバル教育の学習環境に関する調査研究
平成8-9年度科学研究費補助金研究成果報告書 (代表者: 片山忠次, 研究課題番号: 08045005), pp. 1-6.
- 大谷 尚 (1980) 教育学学術情報文献に関する研究 I - ERICを用いたビブリオグラフィックな調査 長崎大学教育学部教科教育学研究報告, 3, 257-267.